

科目	週時数
現代文/古典	現代文 3 古典 3 計 6 時間

育 て たい 力	知識技能	知識や既習事項をもとに、これまで培った国語の力(「相手や場に応じて話す能力」「表現の工夫を評価して聞く能力」「論理の展開を工夫して書く能力」「文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力)」を活用して課題を解決する。
	思考判断表現	自己を向上させるため、異なる価値観や多様な考え方を受け止めながら、多角的に自らの考えを深め、目的・対象に応じた表現ができる。
	主体性協働性多様性	自ら問いを立て、興味関心に基づいて、考えを深めることができる。 かかわり合い協力しながら、考えを広げ、生み出す喜びを知る。 学習活動を自ら振り返り意味づけることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	【現代文】教科書所載教材 ・「二つのアザミ」～「サハラ砂漠の茶会」 ・和語・漢語・外来語・間違えやすい敬語 ・熟語の構成・熟字訓 【古典】自主教材	・表現の工夫や設定の仕方に注意して、作品を読み味わう。 ・場面の展開や表現に着目し、作品を評価する。 ・論の進め方に着目して、筆者の主張を捉える。 ・作品のテーマに関して、判断の根拠を示しながら、自分の意見を述べる。 ・文章を読み比べて、論の進め方や表現について評価する。 ・古典は高1の7月進研模試のレベルを照準とする。
2 学 期	【現代文】教科書所載教材 ・「初恋」～「最後の一句」 ・『3年間の総整理問題集』問題演習 【古典】自主教材	・表現の特徴を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 ・作品を通して、人間や社会について、自分の意見を深める。 ・情報を整理・分析して、より深く捉える。 ・古典は高1の11月進研模試のレベルを照準とする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『新しい国語3』(東京書籍)
副教材	3年間の総整理問題集 国語(正進社) これからの古典文法(尚文出版) 古典文法練習ノート(尚文出版) 漢文学習必携(京都書房)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	読書記録, 弁論文

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	文法書の用言と助動詞の文法的意味と活用の完全理解, 再読文字・否定形・使役形の完全理解
	60%	文法書の用言と助動詞の活用の完全理解, 書き下しのルールと再読文字の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
歴史/公民	歴史 1 公民 3 計 4 時間

目標	(歴史)現代(20世紀以降)の世界について、日本を中心に各時期の特徴と歴史的展開について、史料を活用して批判的に考察・理解し、時代観を示すことができる。 (公民)現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。	
	知識技能	個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識し、民主主義に関する理解を深めることができる。また、現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に捉え、それらに関する諸課題について、必要な能力と態度を備えることができる。
	思考判断表現	自分が理解したことを調べてレポートなどにまとめ、文章や図表を用いて的確に表現することができる。また、自分なりの学習ノートを作成し、学んだ知識を再構成することができる。
	主体性協働性多様性	研究課題を設定し、新聞やニュース、インターネットなどの情報・資料を用いてプレゼンテーションをすることができる。また、ディスカッションで自分の意見を資料をもとに発言することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	[歴史] 6部 二度の世界大戦と日本 2章 高まるデモクラシーの意識 ~ 4章 アジアと太平洋に広がる戦線 [公民] 第1章 現代社会とわたしたちの生活 第2章 人間の尊重と日本国憲法 第3章 現代の民主政治と社会	[歴史] ・20世紀前半について、時期の特徴と歴史的展開を理解する。 ・諸資料を活用し、歴史的事象を多面的、多角的に考察し、適切に表現する。 [公民] ・日本国憲法の制定の意義を大日本国憲法との関連で理解する。 ・日本国憲法の三原則を理解し、自分たちの生活と憲法との関係への関心をもつ。 ・民主主義の意義を理解するとともに、民主主義の基盤には個人の尊重があることに気づかせる。 ・三権(国会・内閣・裁判所)の権限について理解を深める。
2 学期	[歴史] 7部 現在に続く日本と世界 [公民] 第4章 わたしたちの暮らしと経済 第5章 地球社会とわたしたち	[歴史] ・20世紀後半以降について、時期の特徴と歴史的展開を理解する。 ・諸資料を活用し、歴史的事象を多面的、多角的に考察し、適切に表現する。 [公民] ・民主主義の意義を踏まえた上で、地方自治がどのように成り立っているのかを理解させる。 ・企業の目的から資本主義経済の大まかな特徴を理解させる。 ・財政のはたらきを理解するとともに、資料の読み取りを通して財政の課題について考える。 ・地球環境問題の全体像とそれへの取り組みの様子を、具体的な事例を通して理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『中学生の歴史』(帝国書院) 『新しい社会 公民』(東京書籍)
副教材	なし
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の語句の完全理解, 教科書の資料・写真・地図および配布資料の完全理解
	60%	教科書の基本語句の完全理解, 教科書の資料(写真・地図)の理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
数学	7 時間

育てたい力	知識技能	中学校数学の総まとめの問題演習を通して、その履修内容の理解を深め、知識、技能を確かなものにする。さらに、発展的内容として、数学Ⅰの数と式、集合と命題、2次関数、数学Aの図形の性質における概念、原理・法則、用語等を理解し、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく発展的に問題を解決することができる。
	思考判断表現	問題演習および課題学習を通して、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身につける。さらに、数学Ⅰの数と式、集合と命題、2次関数、数学Aの図形の性質の考え方を身につけ、事象を数学的または図形的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
	主体性協働性多様性	数学的活動を通して、考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを発展的な事象の考察に活用しようとする。自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1学期	○中学校数学の総復習 ○数と式(数学Ⅰ)	○中学校数学の履修内容の習熟。 ○論理的思考力および数学的・図形的思考力の育成。 ○問題解決能力の育成。 ○整式の加法・減法・乗法、因数分解ができる。 ○実数の分類、絶対値を理解し、根号を含む式の計算ができる。 ○不等式とその性質を理解し、(連立)一次不等式が解ける。
	○2次関数(数学Ⅰ) ○集合と命題(数学Ⅰ) ○図形の性質(数学A)	○2次関数とそのグラフについて理解し、最大値や最小値を求めたり、2次方程式や2次不等式に応用することができる。 ○集合について理解できる。命題と条件について理解できる。 ○三角形の比の定理について理解し、活用できる。 ○円の性質、定理について理解し、活用できる。 ○基本的な作図、長さの作図ができる。 ○空間図形の基本性質を理解し、応用できる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習および発表
教科書	『新編新しい数学3』(東書 数学928), 『数学Ⅰ Advanced』(東書数Ⅰ317), 『数学A Advanced』(東書数A317)
副教材	Sirius21まとめと完成 発展編 数学(育伸社), TOPS 数学Ⅰ+A(東書), NEW ACTION LEGEND 数学Ⅰ+A(東書)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テストや問題演習などの機会を多く設定する。ICTを活用する

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	副教材「Sirius21まとめと完成 発展編」の例題演習・実践演習の完全理解、教科書の練習問題Bの完全理解、副教材「TOPS数学」のB問題の完全理解
	60%	副教材「Sirius21まとめと完成 発展編」のPOINT CHECKの完全理解、教科書の例題・問・練習問題Aの完全理解、副教材「TOPS数学」のA問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
理科①/理科②	理科① 2 理科② 3 計 5 時間

目標	化学分野では、物質の変化や量的関係について理解し、イオンとの結びつきを身につける。 物理分野では、観察、実験等に基づき、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに、科学的な自然観を養う。	
	知識技能	【理科①】化学変化の実験から、物質をミクロに捉えることでイオンを理解する。 【理科②】物理地学の分野の基礎知識を理解すると共に、それらに関連づけて多角的な知識、応用力を養う。
	思考判断表現	【理科①】水溶液の電気伝導性や中和反応についての事物・現象をイオンのモデルと関連付ける見方や考え方を養う。 【理科②】実験などを通じて探究心を養い、得られた結果を分析し、適切に表現する能力を育てる。
	主体性協働性多様性	【理科①】水溶液に電流を流す実験や電気分解の実験を行い、イオンの存在を知る。 【理科②】実験や授業での取り組みを通じて、主体的に行動する力を養うとともに、協力して行うことの大切さを理解させる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	【理科①】 ・物質どうしの化学変化 ・化学反応式 ・化学変化と質量 ・化学変化と熱 【理科②】 ・電気の世界(静電気、電流の性質と磁界)	以下の各項目についての習得を目標とし、それぞれより深く取り扱う。 【理科①】 ・化合、酸化、燃焼、還元のおしくみ ・化学反応式の表し方 ・質量保存の法則と定比例の法則 ・発熱反応と吸熱反応 【理科②】 ・電流回路についての観察、実験を通して、電流と電圧との関係及び電流の働きについて理解させるとともに、日常生活と関連付けて電流と磁界についての初歩的な見方や考え方を養う。
2 学期	【理科①】 ・電解質と非電解質 ・イオン ・電池、酸とアルカリ ・化学反応と量的関係 【理科②】 ・等加速度運動 ・力の合成と分解 ・力と運動 ・仕事と仕事の原理及びエネルギー	以下の各項目についての習得を目標とし、それぞれより深く取り扱う。 【理科①】 ・水溶液の電気分解 ・イオンの成り立ち、イオン式の表し方 ・電池のおしくみ、酸とアルカリの性質、中和のおしくみ ・原子量、分子量、式量、物質質量と化学反応式の関係 【理科②】 身の回りの物体にはたらく力と運動の様子の変化、仕事とエネルギーの関係について、実験や演習を通して理解させる。

授業の形態	一斉授業
教科書	『新編 新しい科学 2』/『新編 新しい科学 3』(東京書籍)
副教材	基礎の学習 理科2年/理科の自主学習 3年(新学社) カラーブック理科資料宮城県版(東京法令出版) 新しい科学の教科書化学編, 物理編(文一総合出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	実験や観察から得られた知識を元に、副教材の問題集のほか、授業でのプリントが解ける
	60%	副教材の問題集にある試験範囲の問題をきちんと理解して解ける

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
音楽	1 時間

目標	音楽の幅広い活動を通して芸術的な能力を伸ばし、生涯にわたって芸術を愛好する態度を育てるとともに、感性を高め、豊かな情操を養う。	
	知識技能	基本的な発声、奏法ができる力。 基本的な楽譜の読み書きができる力。
	思考判断表現	基本的な知識、技能を使って表現する力。 様々な音楽の特徴の違いを聴き分ける力。
	主体性協働性多様性	ペアやグループの仲間と学びあう力。 グループやクラスで協力して表現する力。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・表現(歌唱) 「花」,「帰れソレントへ」 ・鑑賞 「アイーダ」(ヴェルディ) 世界の諸民族の音楽 ・楽典 音程 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞と音楽の関係を考察し自ら工夫して表現することができる。 ・西洋音楽の中の総合芸術について理解を深め、興味・関心を持って鑑賞することができる。 ・地域によつての音楽のとらえ方の違いに気づき、柔軟な耳をもって鑑賞することができる。 ・楽譜の読み書きに必要な基本的な知識を身につける。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・表現(歌唱) 「荒城の月」,「旅立ちの日に」 「謡」「長唄」 ・鑑賞 「能」 「文楽」 「歌舞伎」 ・楽典 和音 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで培った知識や技能を生かし、互いに聴き合いながらバランスを意識し、自ら工夫して合唱をつくりあげる。 ・日本伝統音楽の歌唱法を体験する。 ・西洋音楽のそれと比較しながら、日本伝統音楽の中の総合芸術について理解を深め、興味・関心を持って鑑賞することができる。 ・楽譜の読み書きに必要な基本的な知識を身につける。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『中学音楽2・3上下 音楽のおくりもの』(教育出版) 『中学器楽 音楽のおくりもの』(教育出版)
副教材	「音楽のハーモニー2・3年下」(正進社), 教師作成のプリント, 教師作成の復習プリント
評価の方法	定期試験, 実技試験, 平常点(ワークシート, ノート, 感想文, 復習プリント等)
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②実技テスト	表現の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教師作成の復習プリントの完全理解
	60%	「音楽のハーモニー2・3年下」の問題の完全理解

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
美術	1 時間

目 標	より高度な表現技術を身につけ、創造することの喜びを知り、美術文化への関心を深める。	
育 っ たい 力	知識 技能	自分の感動やイメージを効果的に表現する技術。 日頃からより多くの“美”に出会おうとする姿勢。
	思考 判断 表現	固定観念にとらわれず柔軟に発想する力。 感受性豊かな心と表現力。
	主体性 協働性 多様性	制作の過程に従って計画的に作業を進める力。 最大限の工夫と努力をもって制作に取り組む姿勢。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	I 鉛筆デッサン 【絵画】 作品1) 「手」の描写 II よく見つけて 【絵画】 色彩研究 作品2) 「葉っぱ」を描く 筆の使い方 作品3) 「花」を描く 遠近法	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆による表現方法を理解したうえで、対象の形や光の明暗をよく観察して、絵画としての立体表現を学ぶ。 ・絵の具の混色や重ね塗りによる技法を用いて、新しい色を発見し、色彩の豊かさを知ると共に絵画表現の幅を広げる。 ・筆による表現の多彩さを知り、自らの作品にいかす。 ・遠近法を学び、奥行きのある表現方法を理解する。
2 学 期	III 表現の基礎～作品鑑賞を通して～ 【鑑賞】 カンディンスキーの作品から学ぶ 作品4) 線や形、色によるイメージ表現 IV 文字のデザイン 【デザイン】 文字をデザインすることについて学ぶ 作品5) 漢字熟語を用いたデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・美術作品を鑑賞して、その特徴や様式を知る。 ・抽象的なイメージを表現できるようになる。 ・身近に溢れる文字の美しさを再認識しながら、制作に取り組めるようにする。 ・デザインに合った着彩方法や筆の扱いを学ぶ。 ・文字の意味やその形から自由に発想して、アイデアを展開し、独創的な作品に仕上げる。

授業の形態	実技
教科書	『美術2・3』(光村図書)
副教材	なし
評価の方法	実技(作品)点と定期試験と平常点による総合評価
備考	PCと映像を利用した鑑賞

到達目標	①定期試験 範囲内の学習内容を完全に理解した上で完全解答を目指す
	②小作品 課題作品の練習として作業の流れをつかむ
	③提出物 期限を守って作品を提出する
	④準備 必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度 作業説明と指導に耳を傾け、試行錯誤を繰り返しながら制作に取り組める

科目	週時数
体育/保健	体育 2 保健 1 計 3 時間

目標	体育分野では心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。保健分野では 個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	
	知識技能	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身につけ、運動を豊かに実践することができるようにする。また、心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。
	思考判断表現	運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。
	主体性協働性多様性	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動 *組体操、運動会の練習 体育理論 バドミントン・卓球 テニス 健康の成り立ちと病気の発生要因 ・食生活と健康 ・運動と健康 ・休養・睡眠と健康 ・生活習慣病の予防 ・喫煙の害と健康 ・飲酒の害と健康 ・薬物乱用の害と健康 ・薬物乱用の社会への影響 ・喫煙・飲酒・薬物乱用の要因と適切な対処	・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習で競技運営ができるようにする。 ・健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があることを理解する。
2 学期	陸上競技(ハードル) サッカー バスケットボール 感染症と病原体 ・感染症の予防 ・性感染症の予防 ・エイズの予防 ・保健・医療機関の利用 ・医薬品の利用 ・個人の健康を守る社会の取り組み ・現代スポーツにおけるスポーツの文化的意味 ・国際的なスポーツ大会が果たす文化的な役割 ・人々を結びつけるスポーツの文化的なはたらき	・ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができる。 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することができる。 ・感染症は、病原体が主要な要因となって発生することを理解する。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解する。 ・健康の保持増進や疾病の予防には、保健・医療機関を有効に利用し、医薬品は正しく使用することを理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『新編 新しい保健体育』(東京書籍)
副教材	2017宮城県中学体育(開隆堂) 新編 新しい保健体育学習ノート(東京書籍)
評価の方法	実技試験と定期試験(保健編)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科目	週時数
技術・家庭	技術 0.5 家庭 0.5 計 1 時間

目標	実践的・体験的な学習活動を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。技術と社会や環境との関わりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。	
	知識技能	自立に必要な知識や技術を習得し、工夫・創造する力を養う。
	思考判断表現	身近な生活や環境だけではなく、世界に目を向け、持続可能な社会について理解を深め、技術や知識を適切に活用する力を身につける。
	主体性協働性多様性	これからの生活を展望し、自ら課題をもって生活をより良くしようとする能力と態度を身につける。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<技術分野> ・生物育成に関する技術 生物育成の技術・知識 作物の栽培(実習含む) 生物育成に関する技術の評価と活用 ・情報に関する技術 デジタル作品の設計と制作(実習含む) プログラムによる計測・制御 情報に関する技術の評価と活用	<技術分野> ・生物育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、社会や環境に果たす役割と影響について適切に評価し活用する能力と態度を身につける。 ・情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、情報に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を身につける。
2 学期	<家庭分野> ・住生活と自立 住まいのはたらき 世界各地の住まい 家族の生活と住まい 住まいの空間の使い方(実習含む) 安全な住まい方の工夫 健康を守る住まい方の工夫 住まいの手入れを安全に行うために	<家庭分野> ・住生活に関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度を身につける。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『技術・家庭 技術分野』(開隆堂) 『家庭分野』(教育図書)
副教材	技術・家庭ノート 技術分野(開隆堂 新学社) 家庭分野(教育図書)
評価の方法	定期試験と平常点(学習状況, 提出物, 授業態度, 作品評価等)による総合評価
備考	学習過程で評価の観点, 生徒の成長や学習状況を評価する

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科目	週時数
英語	6 時間

育 て たい 力	知識技能	物語・伝記, 記事, 説明文等の内容や要点を整理しつつ正確に読み取ることができる。 様々な場面で話されるまとまった英語の概要や要点を整理することができる。 さらにその内容や話者の考えや意向を正確に聞き取ることができる。
	思考判断表現	1つの段落内の要点や内容のつながりを理解できる。 興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 自分の意見や感想を整理し, 文章構成を意識して書くことができる。
	主体性協働性多様性	聞いたり読んだことについて, 感想や意見を述べ合ったり, 問答したりすることができる。 自分の選んだテーマなどについて, 構成を意識してスピーチをすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> •Countries around the World •Pop Culture Then and Now •From the other side of the Earth •Fair Trade Event •A Mother's Lullaby •To Our Future Generations 	以下の事項を理解し, 活用できるようになる。 ・be going to, 比較表現, There is[are], 不定詞 ・受け身(平叙文, 疑問文と応答, 過去分詞 ・現在完了形(継続用法: 平叙文, 疑問文と応答) ・現在完了の文(beenの文) 現在完了形(継続用法), SVOC(C=形容詞) ・現在完了形(経験用法, 完了用法), 受け身, 不定詞(原因を表す副詞的用法) ・疑問詞+不定詞(how to...), It is...for ~to- want to
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> •Living with Robots - For or Against •Striving for a Better World •The Green Door •An artist in the Arctic •What Can Blood Type Tell Us? •Curry Travels around the World 	以下の事項を理解し, 活用できるようになる。 ・現在, 過去分詞の後置修飾 ・接触節(名詞を修飾する文) 関係代名詞who, that[which] (主格, 目的格) ・動名詞, 不定詞 ・分詞の後置修飾 ・現在完了形

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『NEWHORIZON English Course 3』(東京書籍)
副教材	めきめきイングリッシュ3(浜島書店) Serious21英語3(育伸社) 新ユメタン0(アルク)
評価の方法	定期試験・スピーキングテスト・小テスト・提出物の他, 授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実にを行い, 全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 中間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の本文を自由に使いこなせる(読む・書く・聞く・話す) 副教材の問題をすべて解くことができる
	60%	教科書の基本文・語句を使いこなせる めきめきイングリッシュ3の確認問題をすべて解くことができる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
道徳(聖書)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識 技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・39巻の概観と分類 ・旧約聖書の世界 ・モーセ5書資料節 ・P資料の創造物語 ・J資料の創造物語 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・カインとアベル ・ノアの洪水 ・バベルの塔 ・アブラハム ・イサクとヤコブ ・ヨセフ物語 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の持つ「原罪」について深く考える。 ・神の厳しい審判と救いの約束を心に刻む。 ・人間の自己中心性を捉える。 ・不確かな人生の歩み方を考える。 ・神の豊かな選びと、人間の愚かさについて学ぶ。 ・与えられた命を、どのように歩むべきかを主体的に考える。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書 『新しい道徳』(東京書籍)
副教材	なし
評価の方法	定期試験, 提出物による総合評価
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学/国際教養	3L希望学 1 国際教養 1 計 2 時間

目 標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
育 っ て たい 力	知識 技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	「卒業研究」 講話 英会話 シンガポール研修事前学習 「国際教養」	卒業研究を通して、自分の興味関心に沿って、世界の抱える課題に目を向け、その解決の方向性について考える。 また、仮説立案とその検証、課題解決の方法について考え、探究のプロセスの理解を深める。 加えて外部講師の方からの社会が抱える問題について講話を通して、今日の課題に向き合おうとする態度を養う。 知識として学んだ表現を、積極的に用いようとする意欲を涵養する。 シンガポールでのESD学習に向けて多文化共生と持続可能な社会の建設に向けての課題について学びを進める。 多文化環境における注意事項を学び、適切に行動できるようになる。主に、ホテル・観光地での注意点を理解する。
2 学期	「卒業研究」「学問研究」 シンガポール研修事前学習 英会話 「国際教養」 シンガポール研修事後学習	卒業研究を通して、自分の興味関心に沿って、世界の抱える課題に目を向け、その解決の方向性について引き続き考える。 また、仮説立案とその検証、課題解決の方法について考え、探究のプロセスの理解を深める。 加えて外部講師の方からの社会が抱える問題について講話を通して、今日の課題に向き合おうとする態度を養う。 知識として学んだ表現を、積極的に用いようとする意欲を涵養する。 シンガポール研修の旅程に基づき、諸注意事項を最終確認する。さらに、外務省をはじめとする機関からの最新情報を参考にしながら、最新の国際情勢についての理解を深める。 シンガポール研修で学んだことを持続可能な社会の建設に向けて活かせるように振り返りまとめる。

授業の形態	一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする